

授業作り	重 点	○児童の主体的な活動、学びの実現に向けて、児童の意欲を高められるよう指導を行う。 ○一人ひとりの学習状況に合わせた学習を推進できるように授業改善に取り組む。
環境作り		○地域の企業等と連携して、体験的な教育活動を推進していく。 ○地域・保護者の意見を取り入れてともに作り上げることを目指し、運営委員会方式を取り入れ、地域に根差した環境づくりを進めていく。

■ 学年の取組について

学 年	学習状況の分析 (各種調査から)	学校が取り組む目標 (日常の授業の様子から)	目標達成のための取組
1 学 年		<ul style="list-style-type: none"> ・ひらがな・カタカナの読み書きができるようにする。 ・大事なことをもらさずに聞くことができるようにする。 ・10のまとまりを意識しながら足し算や引き算の計算をすることができるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> ①文字にたくさん触れる機会の設定 ②興味をもって聞く機会の設定、スピーチの活用 ③具体物の活用 ④デジタルドリルの活用
2 学 年		<ul style="list-style-type: none"> ・文字や言葉を正しく書くこと、相手に伝わるように文章を書くことができるようにする。 ・既習漢字、片仮名を文の中で正しく使うことができるようにする。 ・計算等において基礎的な力を身に付けることができるようにする。 ・文章を読み、課題をつかんで立式ができるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> ①書く活動を増やす。学習の振り返り、日記の課題 ②デジタルドリルの活用、基礎的な計算練習の反復練習 ③問題文の音読 ④演算決定の根拠となる言葉や図への慣れ
3 学 年	<ul style="list-style-type: none"> ・国語では「書くこと」「話すこと・聞くこと」の力の向上が必要である。 ・算数では、基礎基本の定着を図る必要がある。 	<ul style="list-style-type: none"> ・相手意識をもち、書いたり話したりできるようにする。 ・既習漢字を正しく使うことができるようにする。 ・児童一人ひとりが既習事項を含め、基礎基本を十分に身に付けられるように指導する。 	<ul style="list-style-type: none"> ①書く機会を増やす、学習の振り返り、日記の課題 ②音読の反復練習 ③デジタルドリルの活用 ④漢字ドリルと小テスト、復習プリントの活用 ⑤児童一人ひとりに合わせた課題の設定
4 学 年	<ul style="list-style-type: none"> ・国語では「書くこと」「読むこと」の力の向上が必要である。 ・算数では、どの領域においても全体的な底上げが必要である。 	<ul style="list-style-type: none"> ・文章構成を理解し、登場人物や作者の意図を読むことができるように指導する。 ・四則計算を正しく行えるように指導する。 ・図形の性質を理解し、正しく作図できるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> ①音読による言葉への慣れ ②日記の課題 ③デジタルドリルの活用 ④コンパス、分度器などの道具の使用の慣れ ⑤児童一人ひとりに合わせた課題の設定

5 学 年	<ul style="list-style-type: none"> 文章の内容を正確に読み取るために、より多く語彙や知識を獲得することが必要である。 漢字の定着に個人差がある。 自分の思いや考えを話したり、友達の意見を聞いたりする力が不足している。 自分の考えを表現することに課題が見られる児童がいる。 既習事項を生かした学習が苦手である。 	<ul style="list-style-type: none"> 語彙力を高め、自分の考えの主張と、相手の考えへの共感や反論を指導する。 構成を考えたり、事実と考えを区別して伝えたい事だけを書いたりする指導が必要である。 日常的に漢字を使わせて慣れさせる必要がある。 文章の構成を理解し、それに合わせて自分の意見や考えを表現する力の育成が必要である。 計算の決まりを正しく理解し、正確に計算できる力が必要である。 	<ul style="list-style-type: none"> ①読書等の環境整備と新聞の活用 ②小見出しや要旨の書き出し ③テーマや条件設定、書く分量の指定し、「書くこと」への慣れ ④自分の考えや意見を文章化する機会を増やす、スピーチの活用 ⑤基礎的な計算練習の日々の取り組み ⑥デジタルドリルの活用
6 学 年	<ul style="list-style-type: none"> 漢字を書く力に個人差が見られる。 相手の気持ちを考えたり、論理的に説明したりする力が不足している。 公式を活用できるが、理由を説明したり、考えを進んで伝えたりする力が不足している。 	<ul style="list-style-type: none"> 当該学年の漢字を読めるようにする。 順序立てて説明する力を高める。 相手の気持ちを考える場面を意図的に設定し、気持ちをとらえられるようにする。 問題の意味や公式の活用方法を考えさせ、発言できるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> ①熟語、意味理解を含めた漢字の習熟 ②スピーチをする機会の設定 ③登場人物の心情などを自分に置き換えて考える機会を増やす、読み取りへの慣れ ④問題の意味を理解させ、考えを説明できる場の設定 ⑤デジタルドリルの活用
特 別 支 援			

■ 効果的なデジタルドリルの活用について【チェックリスト】

【区教委提出用・様式2】

- 学校は年度当初にデジタルドリルの活用について保護者及び児童へ説明をしている。
- 学校は活用の際して、IDやパスワードについて保護者及び児童へ説明をしている。
- 児童及び教員がデジタルドリルの内容や機能について概ね理解している。
- 学校は児童が授業や家庭学習においてデジタルドリルが活用できるよう促している。
- 学校は家庭におけるデジタルドリルの活用について具体的に指導している。
- 学校は全ての学年で定期的に様々な場面でデジタルドリルの課題等を児童に与えている。
- 担任等がデジタルドリルを活用し、児童一人ひとりの傾向を把握し、適した課題や指導を行っている。

■ 自校における効果的な学力定着度調査を活用した事後指導について

.

■ 自校における効果的なデジタルドリルの活用について（事前・事後指導を含む）

- ・全学年で、単元の終末にはデジタルドリルを活用するように周知していく。
- ・家庭学習の一つとして、デジタルドリルを課している。
- ・デジタルドリルの解き直しをノートに行うなどして、間違いを正して基礎基本の定着が図れるようにする。

■ HP掲載／内容更新チェックリスト

区教委への様式提出締切日	更新日	更新確認者職名・氏名
例	5月6日（金）	主幹教諭・新宿太郎
第1回 5月8日（月）締切	5月10日（水）	主任教諭・高田智也
第2回 11月13日（月）締切	11月15日（水）	主任教諭・高田智也
第3回 3月11日（月）締切	3月13日（水）	主任教諭・高田智也